

# 2015年3月期 第3四半期決算報告 個人投資家の皆さまへ

一生のパートナー

第一生命

第一生命保険株式会社

証券コード: 8750

## 2015年3月期 第3四半期決算のポイント

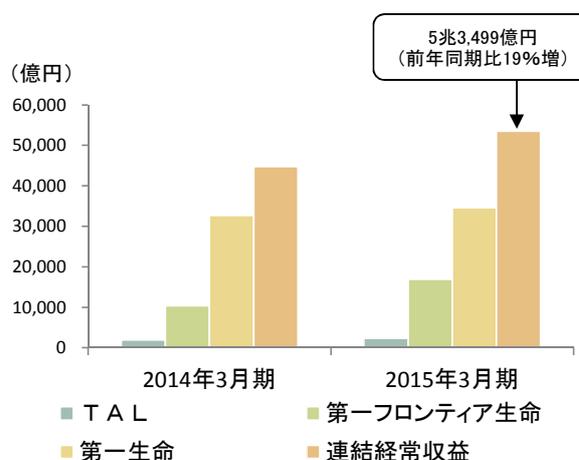
- 2015年3月期第3四半期の連結経常収益は前年同期比二桁の増収となりました。成長分野が好調に推移したことが主な要因です。
- 連結経常利益・連結純利益は、第一生命単体の利息配当金等収入の増加による収支改善や、第一フロンティア生命の保有契約増加に伴う収益力向上などから、大幅な増益となりました。
- 2015年3月期の連結業績予想は、法人税減税の決算への影響を勘案しながら、第4四半期の金融環境も見極める必要があるため据え置きとしました。

### (1) 経常収益

連結経常収益は5兆3,499億円（前年同期比19%増）となりました。

第一生命単体と第一フロンティア生命における貯蓄性商品の販売や、オーストラリアのTAL社（以下、「TAL」）を始めとする海外生命保険事業といった分野で、保険料収入が好調に推移しました。

### 経常収益 第3四半期実績

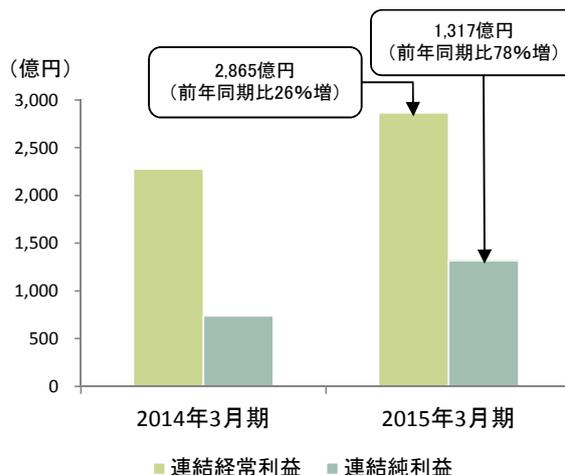


## (2) 経常利益・純利益

連結経常利益は2,865億円(前年同期比26%増)、連結純利益は1,317億円(同78%増)と大幅増益となりました。

第一生命単体では、国内の低金利環境が続くなか外貨建債券への資産配分を増やしたことなどにより、利息配当金等収入が増加し、収支が改善しました。第一フロンティア生命では、保有契約の増加に伴い収益力が向上し、前年同期比で赤字額が縮小しました。

### 経常利益・純利益 第3四半期実績



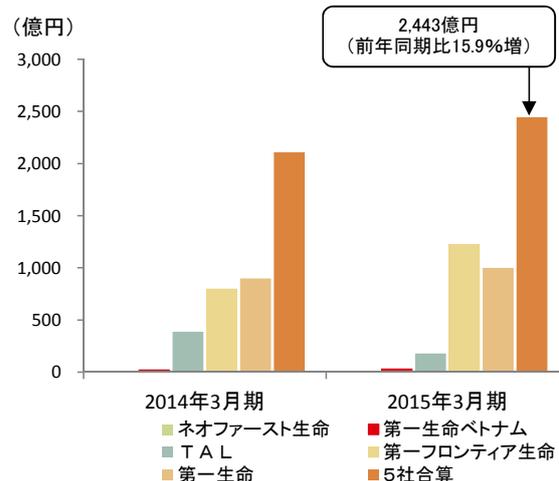
## (3) 新契約の状況

新契約を1年あたりの保険料に換算した新契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア生命、ネオファースト生命<sup>(※)</sup>、TAL、第一生命ベトナムの5社合算で2,443億円となりました。

第一生命単体では、相続準備のための貯蓄性商品の販売が増加しました。第一フロンティア生命では、外貨建商品を中心に販売好調が続きました。

(※)ネオファースト生命の実績は2014年7-12月のみ記載しています。

### 新契約年換算保険料 第3四半期実績



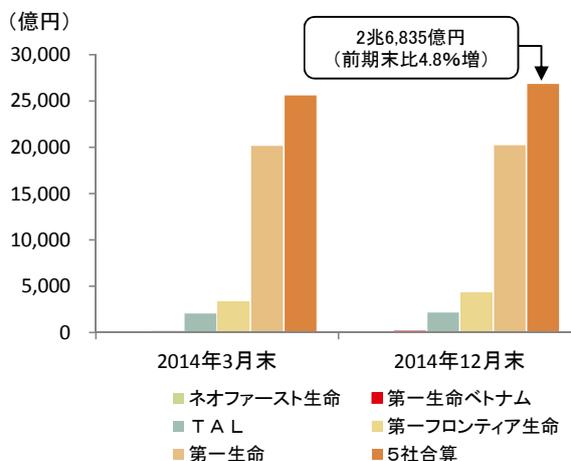
## (4) 保有契約の状況

保有契約を1年あたりの保険料に換算した保有契約年換算保険料は、第一生命単体(個人保険・個人年金保険の合計)、第一フロンティア生命、ネオファースト生命<sup>(※)</sup>、TAL、第一生命ベトナムの5社合算で2兆6,835億円となりました。

第一生命単体の保有契約は、前期末比0.3%増となりました。第一フロンティア生命は同30.2%増、TALは同6.0%増(円建て。現地通貨建ては2.9%増)となりました。第一生命ベトナムも順調に保有契約を積み上げています。第一生命グループ全体では同4.8%増と着実な成長を遂げました。

(※)ネオファースト生命の実績は2014年12月末のみ記載しています。

### 保有契約年換算保険料



(5) 含み損益

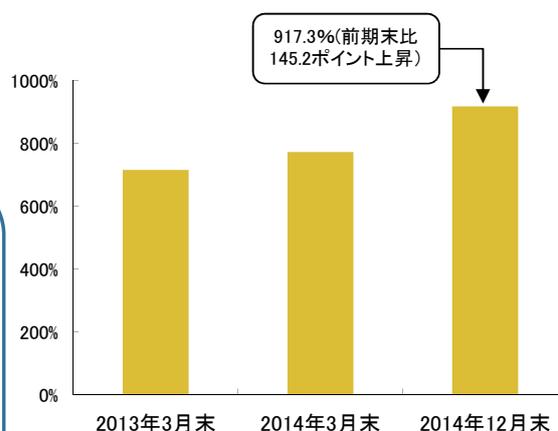
第一生命単体の一般勘定資産の含み損益(2014年12月末)は、5兆4,947億円となりました。国内外の金利低下と株価上昇により、国内債券、国内株式および外国証券などの含み益が増加し、一般勘定資産全体では前期末比で2兆4,442億円の増加となりました。

含み損益(一般勘定)			
	2014年 3月末	2014年 12月末	増減
有価証券	30,056	53,491	+23,434
うち国内債券	13,813	24,611	+10,798
うち国内株式	9,318	15,184	+5,866
うち外国証券	6,422	12,960	+6,537
不動産	482	672	+189
その他共計	30,505	54,947	+24,442

(6) ソルベンシー・マージン比率<sup>(※)</sup>

第一生命単体のソルベンシー・マージン比率(2014年12月末)は、普通株増資と有価証券の含み益増加などにより、前期末に比べ145.2ポイント上昇し917.3%となりました。

ソルベンシー・マージン比率の推移



(※)ソルベンシー・マージン比率とは？

ソルベンシー・マージン比率とは、通常の予測を超えて発生するリスクに備えて「支払余力」がどの程度カバーされているかを示す行政監督上の指標のひとつです。

具体的には、生命保険会社が抱える保険金等のお支払いに係るリスクや資産運用に係るリスクなど、多様なリスクが通常の予測を超えて発生した場合、資本などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージン総額)で、これらリスク(リスクの合計額)をどの程度カバーできているかを指数化したものです。

同比率の算出は、ソルベンシー・マージン総額をリスクの合計額で割算して求め、同比率が200%以上であれば、健全性についてひとつの基準を満たしていることを示しています。

(7) 業績予想

2015年3月期第3四半期累計では、昨年11月14日発表の業績予想に対して高い進捗率となりました。

しかし、現在国会で審議されている法人税減税の決算への影響を勘案しながら、第4四半期の金融環境も見極める必要があるため、現時点では業績予想を据え置きとします。

連結業績予想

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)	増減
経常収益	60,449	64,090	+3,640
経常利益	3,047	3,180	+132
純利益	779	800	+20

(億円)

	2014年3月期 (実績)	2015年3月期 (予想)	増減
1株当たり <sup>(※)</sup> 純利益	79	67	△ 11
1株当たり期末配当金	20	25	+5

(円)

(※)1株当たり純利益の計算に際しては、株式給付信託(J-ESOP)により信託口が所有する当社株式及び信託型従業員持株インセンティブ・プラン(E-ship<sup>®</sup>)により第一生命保険従業員持株会専用信託が所有する当社株式を除いています。

免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。